

米国 研究によると「薬としての食品」戦略は有効

[Produce Market Guide 2024年3月26日](#)

新しい研究によると、地元の農場から新鮮な果実や野菜を無料で毎週宅配する事業が、健康状態の改善に役立ったことが明らかになった。

3月18日から21日にかけてシカゴで開催された米国心臓協会の「疫学と予防/ライフスタイルと心血管代謝科学セッション2024」で発表されたこの研究は、青果物の宅配により、受領者の栄養水準、身体活動の程度、及び心血管疾患の危険因子が改善されたとしている。

研究の概要によると、青果物を16週間無料で毎週宅配した後、研究参加者らは果実と野菜の摂取量を1日当たりほぼ1/2単位(サービング)増やし、毎週の身体活動時間を42分増やした。1年後には、毎週無料の青果物の配達を受けなかった成人と比較して、血糖値のコントロールが良く、悪玉コレステロールの値が低かった。また、毎週無料の青果物プログラムに参加した成人は、心血管健康指標が改善されたこともわかった。

この研究の筆頭著者であり、スタンフォード大学医学大学院の医学部と疫学及び公衆衛生学部で助教授を務めるリサ・ゴールドマン・ローザ氏はニュースリリースで、「果実や野菜などの健康的な食品を食べることが体に良いことは誰もが知っているが、健康を改善するための小さな予防策を講じるのではなく、単純な解決策を見つけることに集中しすぎることがある。我々が調査したレシピー・フォー・ヘルスのような『薬としての食品』プログラムは、健康状態の改善に役立つため、すべての人が新鮮な果実や野菜などの健康的な食事を常に手頃な価格で入手できるようにすることに焦点を移すことを目的としている」と述べている。

関連リンク: [研究概要\(英文\)を見る](#)

執筆者: トム・カースト

米国フロリダ州 柑橘類の生産は引き続き減少

[FreshFruitProtal 2024年3月28日](#)

2022-23年度シーズンの最新のフロリダ州柑橘類統計レポートによると、総生産量は前年比で60%減少した。現在、米国の柑橘類の生産量はカリフォルニア州が最も多く、総生産量の79%を占めているが、以前かずっとそうだったわけではない。カリフォルニア州は2016年にフロリダ州を抜いて米国内最大の柑橘類産地となった。近年、2017年のハリケーン「イルマ」のような一連の破壊的な気象災害がこの業界に打撃を与えている。その年のフロリダ州の収穫量は過去70年間で最低となった。

州内でカンキツグリーンング病の蔓延が続いているため、州内の生産者は毎シーズン課題に直面している。フロリダ州でこの病気が最初に検出された2005年以降、同州のオレンジ出荷量は1億5千万箱から2023年には1,580万箱へと90%減少した。

2022-23年度の全米の収穫量に占めるフロリダ州の割合は17%に減少し、カリフォルニア州に大差を付けられた第2位となっている。残りの4%はテキサス州とアリゾナ州が生産した。品目別では、フロリダ州のオレンジ出荷量は1,580万箱で、前のシーズンから62%減少した。フロリダ州のグレープフルーツ出荷量は181万箱で46%減少し、タンジェリンとタンジェロの出荷量は前のシーズンから36%減少した。

出荷額の減少 フロリダ州の2022-23年度の柑橘類の出荷額は、暫定的な樹上評価額で1億9,400万ドルと推定され、これは2021-22年度の改訂推定値5億100万ドルから61%の減少となる。全米合計の出荷額は13%減の25億8千万ドルであった。

輸出 2022-23年度のフロリダ州の生鮮果実輸出量は、合計46万7千箱であった。ベルギー向けはフロリダ州のグレープフルーツ輸出量のほとんどを占め、カナダ向けはフロリダ州のオレンジとタンジェリンの輸出量の大部分を占めた。2022-23年度シーズンには、合計67万5千ガロンの冷凍濃縮オレンジ果汁(FCOJ)がフロリダ州から輸出された。(上記報告書内の情報の多くは米国農務省農業統計局のデータによる。)